

世界遺産ジョージタウンのアートツーリズム

ー「アートのなもの」をめぐる観光社会学とアート研究の接合

鍋倉咲希

本研究発表は、マレーシア、ペナン州の世界文化遺産ジョージタウンにおけるアートツーリズムを対象に、地域社会とアートおよび観光の動態について観光社会学の視点から考察することを目的としたものである。

本研究発表では、先行研究のレビューが大変丁寧に行われ、自研究の位置付けと狙いが明確に提示されていた。とくに、「移動者」<—>「定住者」という視点から、移動者の視座を組み込んで研究しようとした点が観光研究としての価値を有しているといえる。

また、「アート」「アートのなもの」という2つの概念を動的に活用し、「観光」という論理が「アートのなもの」を「アート」にしていく生成的關係を上手く捉えている。

ただし、アート研究に対する「ストリート・アート」の特性の位置付けが弱く、さらに、新たに生成された「アート」の継承性や、長く継承されてきた世界遺産との関係性、さらには観光客が「喜ぶ」からという基準に基づく活動が地域とどう共存するのかがみえてこない。

また、フィールドワークに基づく研究ではあるが、動態を捉える際の立場性、たとえば住民、アーティスト、観光客の違いなどを踏まえた資料収集、マレーシアという社会の特性を踏まえた研究事例の位置付けなどが深化するとさらに研究としての進展が期待できる。